

わが街熊谷遺跡めぐり 王子西遺跡

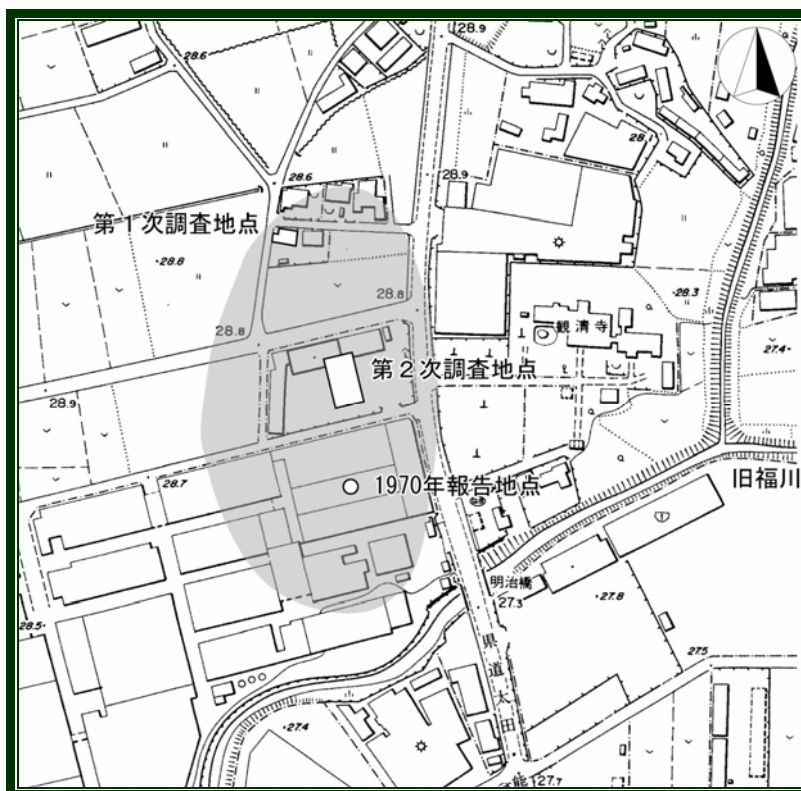
1 はじめに

王子西遺跡は、熊谷市北部、弥藤吾地内の妻沼低地上に立地する、古墳時代から平安時代にかけての集落遺跡です。

遺跡は、妻沼低地の微高地上の標高 28m前後の平坦地に位置し、東西 125m、南北 210mの範囲に広がっています。本遺跡の立地する微高地のほぼ中央を南北方向に貫くように、県道太田・熊谷線が通っており、聖天山歓喜院の東側を抜け、刀水橋を経て群馬県に至る、利根川の渡河点として古くより重要な位置を占めています。

平成 21 年 1 月に、約 88 m²の第 1 次発掘調査が行われ、平安時代の住居跡 5 軒が確認されています。今回紹介する第 2 次調査は、平成 23 年 9 月から 10 月にかけて調査が行われ、平安時代の住居跡 4 軒、土坑 14 基、溝跡 5 条、柱穴列 1 が確認されています。

第 1 図 王子西遺跡の範囲と調査地点



2 王子西遺跡の調査

今回の発掘調査によって検出された遺構・遺物の主体となる時期は、10世紀前半の平安時代です。第1次調査地点では、9世紀後半の住居跡が確認されており、隣接地点では、古墳時代の遺物が採取されています。このことから、本遺跡は、古墳時代より10世紀前半にかけて断続的に営まれた集落跡と推測されます。

調査区の西側に確認された4条の溝跡は平行し、同じ箇所で途切れていることから、排水路としての機能とともに、集落の一部を画する区画溝としての機能も担っていた可能性も考えられます。

出土遺物は、土師器や須恵器の土器類のほか、羽口片や鉄滓が出土していることから、集落内で小鍛冶を行っていたり、土錘が出土していることから、遺跡の南側を流れる福川で漁撈活動を行っていたことが推測されます。

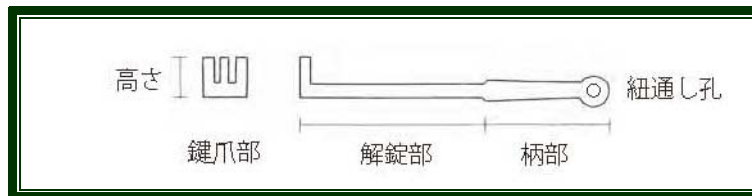
写真1：調査区全体写真



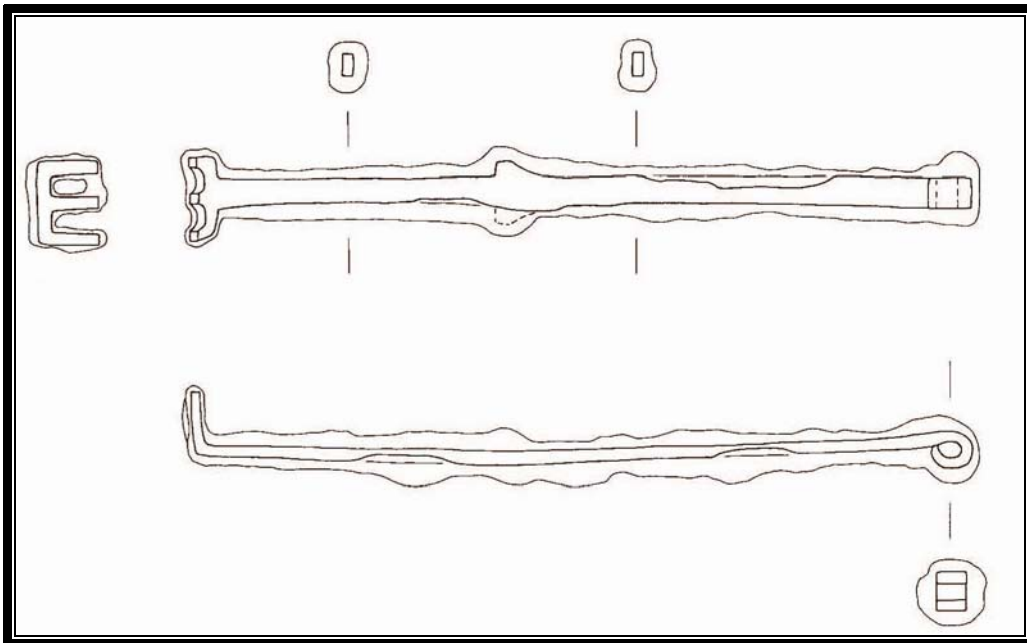
3 鉄製鍵について

注目される遺物として、第2号溝跡より出土した鉄製の鍵があります。全長20.7cm、解錠部長8.2cm、柄部長12.5cmを測ります。柄部の端部には、環状に折り曲げて紐通し孔がつくられています。

第2図 鍵の各部位名称



第3図 第2号溝跡出土鍵実測図



県内での鍵の出土例は、川越市光山遺跡・上里町中堀遺跡・行田市筑道下遺跡・深谷市北坂遺跡・和光市花ノ木遺跡・本庄市今井遺跡群・熊谷市寺内遺跡の7例程あります。出土した遺跡は、地方官衙関連人物にかかわる遺跡や、交通の要衝に立地する遺跡、掘立柱建物跡を伴う大規模集落遺跡または寺院跡となっています。

鍵が存在するということは、重要物品を納めた倉庫が存在したということになり、そのための組織的な管理体制が存在したことが推測されます。

今回の調査は、調査面積が狭いため、掘立柱建物跡と判断される遺構は確認

できませんでしたが、調査区北東側に、柱穴列が並び調査区外へと延びており、掘立柱建物になる可能性も推測されます。

鍵の機能は、重要物品の管理・保管にあることから、その倉庫を必要とする施設およびその収納品を備える施設は、一定以上の階層に属する人物・機関が存在した遺跡と見ることができ、本遺跡の性格を考える上で重要な遺物であると言えます。

写真2：鉄製鍵・X線写真



平成24年6月4日発行

熊谷市立江南文化財センター（熊谷市教育委員会 社会教育課 文化財保護係）
—わが街熊谷遺跡めぐり— 王子西遺跡 テーマ展解説書 第12集